

# 秩父鉄道「ソシオ流通センター駅」が開業しました



(行田市・熊谷市境の熊谷市戸出地内)

秩父鉄道新駅「ソシオ流通センター駅」が開業した持田―熊谷駅間は、4.8kmと秩父鉄道で最も長く、本市・熊谷市・秩父鉄道の3者により、沿線地域の活性化と、利便性の向上および地域鉄道発展のための協議を重ねてきました。その結果、このたび、本市と熊谷市による請願駅として、4月1日に晴れて新駅の開業が実現しました。

## 新駅開業にあたって

本市の市民意識調査では、「交通の便が悪い」という回答が多く、地域公共交通の利便性の向上が求められています。これまでにも、本市と熊谷市の両市では、秩父鉄道の最長区間である持田―熊谷駅間に、新駅の設置を30年以上にわたって要望してきました。また、平成27年1月に、本市と熊谷市を結ぶ民間路線バスが廃止されたことから、この「ソシオ流通センター駅」は、本市と熊谷市の双方にとって、通勤や通学など住民生活に欠かすことができない地域公共交通の拠点として、重要な役割を果たすこととなります。

## 新駅設置事業費

新駅設置事業費計	
全体事業費	3億9,019万円
うち熊谷市負担	2億3,223万円
うち行田市負担	9,446万円
うち国庫補助金	6,350万円

## 内訳

駅舎・ホーム		駅前広場・アクセス道路	
全体事業費	2億2,539万円	全体事業費	1億6,480万円
うち熊谷市負担	8,095万円	うち熊谷市負担	1億5,128万円
うち行田市負担	8,094万円	うち行田市負担	1,352万円
うち国庫補助金	6,350万円		

## その他の関連事業

熊谷市	配水管布設費	651万円
	駐輪場整備費	416万円
行田市	踏切道拡幅事業費	4,612万円
	周辺道路整備費	1,103万円

域であることから、新駅開業による利便性の向上により、さらなる宅地開発の進展が期待されます。



## 今後の新駅周辺の地域づくり

本市では、都市計画マスタープランにおいて、「質の高い住環境を備えた都市生活圏の形成」の実現を目指しており、今後、道路、側溝などの住環境整備を引き続き実施することにより、良好な生活環境を創出していきます。

また、新駅北側を通行している市内循環バス（西循環コース）を4月から延伸し、熊谷市とともに、新駅に市内循環バスを乗り入れており、広域的な交通ネットワークの形成による交通利便性のさらなる向上を図ります。



菅谷自治会長  
荒井 利雄さん(持田)

ソシオ流通センター駅ができ、地元に住む人にとって交通の便が良くなり、とてもうれしく思っています。通勤や通学など身近な生活の足として多くの人に利用してもらいたいです。

今後は開業をきっかけに、地域がより発展・活性化していくことを期待しています。



鈴木 和子さん(持田)

近くの路線バスが廃止され、不便を感じていましたが、新駅ができたことで市内外へ出掛けやすくなりました。

また、駅周辺も整備され、踏み切りや道路が広くなり、車の往来が楽になりました。

将来、子供たちが大きくなり、通学の足として利用できたらいいと思います。